

群 教 セ	G08 - 03
	平15.216集

## 商業科目「簿記」における特殊売買取引の 仕訳の学習を支援する CAI 教材の作成

- 始業前や放課後の補習及び家庭学習での活用を目指して -

特別研修員 住吉 信篤（群馬県立高崎商業高等学校）

### 《研究の概要》

本研究では、商業科目「簿記」における特殊売買取引の仕訳問題の学習を支援する CAI 教材を作成した。作成に当たっては、解説において図を多く用いたり、プレゼンテーションソフトウェアのアニメーション効果を取り入れたりすることによって、生徒が理解しやすいように工夫した。そして、本 CAI 教材を始業前や放課後の補習や家庭学習で活用することが、特殊売買取引の仕訳の理解に役立つことを検証した。

【キーワード：商業 簿記 仕訳 資格取得 CAI】

### 主題設定の理由

県内の商業高校は、各種資格取得を目標として学習指導を行っていることが多く、商業科目の授業は資格試験の合格を目指して展開されている。

資格取得は、商業高校で学ぶ生徒の学習意欲の向上や合格したときの達成感など、現在の商業高校生にとって有益なものとなっている。本校卒業後の進路については、高度な資格取得による大学推薦入試の合格者が年々増加している。受験する大学によっては一定基準以上の資格を取得していると優遇措置が受けられたり、特別な資格者入試を受験できたりするということもあり、資格取得は現在商業高校で学ぶ生徒にとって大きな目標となっている。

本校における高度な資格取得者や、多数の資格を持っている生徒を調べてみると、そのほとんどが1年次に簿記の検定を取得していることがわかる。商業科目「簿記」は商業教育を学ぶ上で最も重要となる科目の一つで、本校では1年次に5単位の履修とし、全員が全国商業高等学校協会主催簿記実務検定2級合格を目標としている。本校では、「簿記」の学習において基礎・基本の徹底を図ることを目的とし、「簿記」の授業の中で教員二人を配置することにより、多くの生徒に資格取得の可能性を広げようと試みてきた。その結果、昨年度の状況を見ると前年度までと比べ多くの生徒が合格し、成果を上げたといえる。それは、少人数で習熟度に応じて指導することができたことがその要因と考えられ、今年度も同じ形態で行っている。しかし、二人配置にすることにより改善が図られたのであるが、クラスの全員が授業時間内に学習内容を理解することができたわけではなく、補習授業を行うことも多々あった。

本校では、始業前や放課後を用いて補習授業を行うことが多いが、部活動が盛んなため朝練習に参加している生徒や夜遅くまで練習をしている生徒、遠方より通学している生徒がいるため、補習授業の時間の確保が困難な生徒も少なくない。

そこで、自分一人でも簿記の学習ができる CAI 教材、特に簿記検定合格のカギとなる仕訳の CAI 教材があれば役立つのではないかと考えた。仕訳は企業における取引を、決められた方法で記録していくもので、一つ一つの取引の場面に応じて行われるため、生徒にとっては学習しやすく、CAI 教材の作成が学習内容の理解に効果的であると考えられる。その際、教科書

や問題集では表現できない動画などを用いて取引を分かりやすく解説し、問題練習が行える CAI 教材としたい。

本研究では、全国商業高等学校協会主催簿記実務検定 2 級合格を目指した特殊売買についての仕訳に絞り、生徒が始業前や放課後の学習及び家庭学習でも簡単に活用できるような CAI 教材を作成したいと考えた。

## 研究のねらい

授業時間内だけでは理解のできなかった生徒や、復習をしたい生徒などが取引の内容や仕訳の方法が理解できる CAI 教材を作成する。始業前の補習及び家庭学習などで活用し、その有効性を検証する。

## 研究の見通し

Microsoft PowerPoint などのソフトウェアを用いて特殊売買について、取引の解説、仕訳の解説及び問題演習という段階に分けて学習することができるように作成し、授業時間内だけでは理解できなかった生徒が始業前や放課後の補習及び家庭学習で活用すれば、特殊売買取引の仕訳の理解に役立つであろう。

## 研究の内容

### 1 教材の概要

#### (1) 基本的な考え方

本教材は、全国商業高等学校協会主催簿記実務検定 2 級における仕訳問題の中で、特殊売買に関する取引に限定して問題を取り上げる。授業においてすでに学習した内容になるが、授業時間内では理解ができない生徒や、復習の必要な生徒を対象に利用されることを目的とするため、以下のような点を考えて作成した。

ア 取引に関する説明を分かりやすく行うことを最重要課題として作成する。

イ 実習問題は、問題数を多くこなせるように随時更新を行う。

ウ 生徒が解答するとき、誤字をなくすために解答用紙を印刷して記述式で使用するよう  
に作成する。

エ 問題の内容は、基本問題から応用・検定問題までが網羅されるように厳選する。

オ 問題文を読んでも理解ができずに投げ出してしまわないように、必要に応じてヒントや  
ポイントを記し、生徒が自ら解答を導き出せるよう作成する。

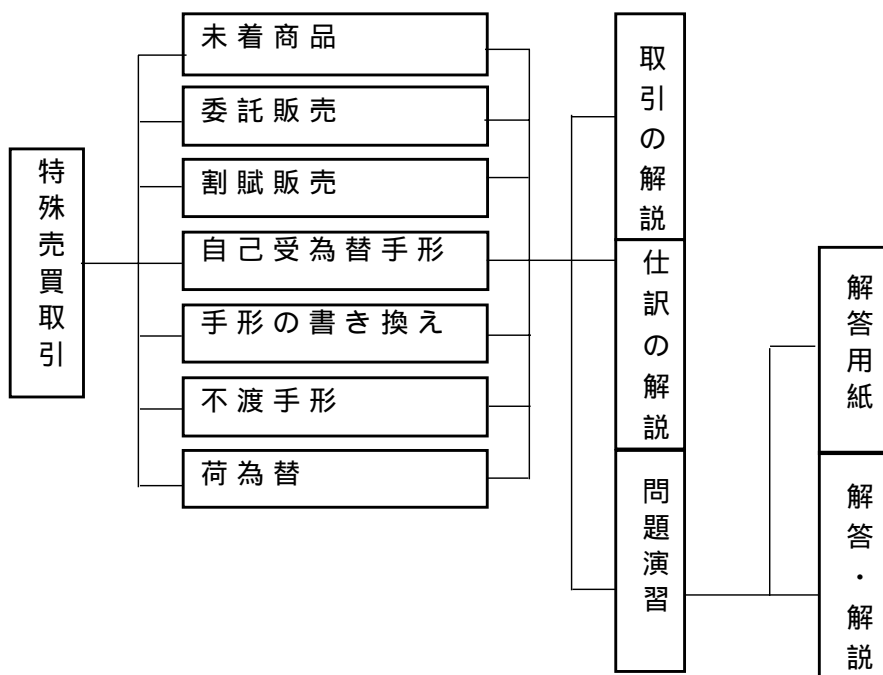
カ 教材の利用に当たっては、フロッピーディスクの貸し出しを行い、学校のコンピュータ  
室の活用や、自宅のコンピュータによって幅広く対応できるようにする。

#### (2) 教材の構成

本 CAI 教材で扱う「特殊売買取引」には「未着商品」「委託販売」「割賦販売」「自己受為替  
手形」「手形の書き換え」「不渡手形」及び「荷為替」の 7 つの取引がある。

さらに、その一つ一つの取引は「取引の解説」「仕訳の解説」及び「問題演習」に分かれて  
いる。そして、「問題演習」からは「解答用紙」と「解答・解説」へリンクを設定した。

図 2 から図 7 は 7 つの取引のうち、「未着商品」を例とした図である。他の 6 つの取引も同  
じように作成した。



## 2 教材の内容

### (1) 「特殊売買取引」(図1)

「特殊売買取引」の画面では、特殊売買取引を各単元に分け、どの単元からでも学習ができるように作成した。

それぞれの単元に分けることにより、その授業を欠席した生徒や、授業時間内では理解ができなかった生徒が、自ら必要と感じた学習項目を選択し学習に取り組むことができるように工夫した。

### (2) 「未着商品」(図2)

それぞれの単元におけるメニューを選択する画面である。

まず、図1の特殊売買取引の画面で選択した取引において「取引の解説」(図3)、「仕訳の解説」(図4)、「問題演習」(図5)の順番で学習していくように作成した。

「取引の解説」の画面においては、その取引の内容を理解させるために取引の説明を行い、「仕訳の解説」の画面においては、取引に対する仕訳を例題を用いて解説する。そして「問題演習」の画面において実習問題を解き、理解の確認を行うという手順である。

このように三つの段階にしたのは、仕



図1 「特殊売買取引」の画面



図2 「未着商品」の画面

訳を学習するには初めに取引の意味を理解することが重要であり、単に解答パターンを暗記するだけでは本当の知識とはいえないからである。

(3) 「取引の解説」(図3)

特殊売買における取引の内容や、特徴などを解説する画面である。取引の内容を、図や画像などを用いて分かりやすく説明するようにした。

特殊売買取引は、生徒たちが日常経験することの少ない取引や、複雑な取引が多いため教科書を読んだだけでは理解が容易でない。そこで、図解や静止画を取り入れるとともに、プレゼンテーションソフトのアニメーション効果を用いることにより、取引の内容を理解しやすいように工夫した。

(4) 「仕訳の解説」(図4)

仕訳の例を用いて仕訳の解説をする画面である。

「取引の解説」において、実際に取引の内容が理解できたら、その取引の仕訳がどのようになるのかを例題を用いて説明し、実習問題を行うための準備とする。取引もいくつかのパターンが予想されるが、この画面においては、基本的な取引に絞って説明を行うこととする。

また、プレゼンテーションソフトウェアのアニメーション効果を用いるとともに、重要な部分にアンダーラインや矢印等を取り入れて、理解しやすいように工夫した。

(5) 「問題演習」(図5)

特殊売買取引における仕訳の実習問題の画面である。取引における仕訳を理解できたら、自分で実習問題を行い、さらに理解を深める。実習問題を繰り返し行うことは大切であるが、同じ問題だけを繰り返し解いていたのでは解答を暗記してしまう。そのため、問題を随時更新することにより、解答を暗記してしまうことを防ぐようにする。

また、解答が正しいかどうかを確認するために、「解答・解説」の画面にリンクを



図3 「取引の解説」の画面



図4 「仕訳の解説」の画面



図5 「問題演習」の画面

設定し、その場で確認ができるようにする。本 CAI 教材においては、数多く予想される取引のなかから、基本・応用・検定問題を数問ずつ取り上げ、すべてを網羅するように出題を考えた。

(6) 「解答用紙」(図6)

実習問題を解くための解答用紙の画面である。

実習問題を解くにあたり、解答を記入することが必要となる。解答用紙には、キーボードから入力することもできるが、簿記実務検定においては、仕訳の問題の解答をするにあたり記述式で解答を行うため、誤字も採点の対象となる。そのため、解答を正確に記入できるような能力も身に付けなければならない。

そこで、解答用紙は原則としてプリントアウトして使用するようにし、利用する生徒が解答を自らが記入することにより、勘定科目を正確に解答できる力が身に付くようにした。

(7) 「解答・解説」(図7)

実習問題の解答・解説の画面である。

問題を解いた後に、自分で解答を確認し誤答を訂正することができる。

また、間違いやすい問題などは解説を加えることにより、自分で間違いを訂正し、復習することができるようになる。

問題用紙の更新に伴い、解答・解説も平行して更新していく必要がある。そして、図5の問題用紙とリンクさせ、解答と解説を見て採点をした後に、もう一度問題に挑戦できるように作成する。解答・解説をみても問題を理解できない生徒が出てくることも予想されるため、できるだけ基本的なことから解説を加えるように作成した。

3 実践の結果と考察

(1) 実践の方法

本 CAI 教材は、授業で活用するのではなく、授業時間内では理解できなかった生徒が、始業前や放課後の補習及び家庭学習で活用することを目的として作成した。特殊売買取引の仕訳の学習は、授業において



図6 「解答用紙」の画面



図7 「解答・解説」の画面

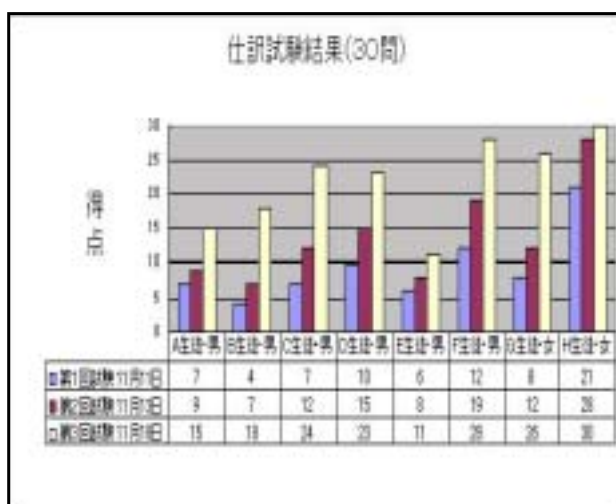


図8 仕訳試験の結果

は10月後半に終了している。本 CAI 教材を活用する生徒を抽出するため、習熟度を確認する意味で特殊売買取引の仕訳(30問)の試験を行った。その結果、24問(80%)以上正解した生徒はクラス38名(男子17名・女子21名)のうち30名であった。これにより、正解率80%未満の生徒8名(男子6名・女子2名)を対象生徒として抽出することにした。

対象生徒8名にフロッピーディスクを配布し、1日3回、始業前、昼休み及び放課後に教材を活用するように指示した。その後3回の仕訳試験の成績を比較したグラフが図8である。試験の問題は解答を暗記することのないように、毎回違う問題を用意し、より正確な結果が得られるようにした。また、試験の他にアンケート調査を行い、特殊売買取引の理解度と感想を集計した。図9は本 CAI 教材を活用した実践の様子である。



図9 実践の様子

## (2) 結果と考察

図8の仕訳試験の結果から、得点に関しては、個人により差はあるものの8名とも試験を行うごとに上昇した。最も得点の上がり幅が大きかった生徒の点数は18点であり、最も上がり幅が小さかった生徒でも点数は5点上がっている。また、今までは授業や補習授業などにも積極的に参加をせずに、「簿記」の学習を嫌っていた生徒が、本 CAI 教材を活用して熱心に学習するようになった。これらのことから、本 CAI 教材が特殊売買取引の仕訳の理解に役立つことがわかった。そして、本 CAI 教材が「簿記」に興味や関心を持つきっかけとなることもわかった。

今までのように、講義形式やプリント学習の補習ではなく、本 CAI 教材を活用した補習の感想(表1)から「授業では集中できないが、この教材は自分のペースで進んでいくのでよかった」という感想を持った生徒が8名中7名(88%)いたことから、補習や家庭学習などで一人のときにも、本 CAI 教材によって、自分のペースで学習することができることがわかった。また、「取引の説明で絵や文字が順番に動くのでわかりやすかった」という感想を持った生徒が8名中6名(75%)いたことから、図解やアニメーション効果などが生徒の理解に役立っていることがわかった。

表1 本 CAI 教材を活用した感想(全8名中)

「授業では集中できないが、この教材は自分のペースで進んでいくのでよかった。」	7名(88%)
「取引の説明で絵や文字が順番に動くのでわかりやすかった。」	6名(75%)
「わからなかった所は前に戻れるのでよかった。」	4名(50%)
「解答がすぐに出てくるのでよかった。」	4名(50%)
「家にプリンターがないので別の紙に解答をした。」	3名(37%)
「問題が同じようなものが多い。」	2名(25%)
「操作が途中でわからなくなるときがあった。」	2名(25%)

## 研究のまとめと今後の課題

本研究で、商業科目「簿記」における特殊売買取引の仕訳の学習を支援する CAI 教材を作成し、授業時間内では理解できなかった生徒を対象にその有効性を検証した。その結果、授業時間内において理解のできなかった生徒も本 CAI 教材を、始業前や放課後の補習及び家庭学習で活用すれば、特殊売買取引の仕訳の理解に役立つことがわかった。

今後は、本 CAI 教材の問題を随時更新していくことや、解答用紙の記入方法及び取引の解説の方法などをさらに工夫していくことが課題である。

### < 参考・引用文献 >

- ・『簿記』 一橋出版
- ・『簿記実務検定対策問題集合格ガイド 2 級』 一橋出版